



# WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ  
2020～2021 年度 高山中央 RC 会長テーマ  
「集う」



◆会長 村瀬 祐治 ◆幹事 岡崎 壮男 ◆会報委員長 岩本 正樹 ◆会報担当 高木 純

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

### <出席報告>

	会員数	出席会員	出席	Make-up	出席率
本日 1244 回	57 名	56 名	50 名	—	89.29%
前々回 1242 回	58 名	57 名	48 名	0 名	84.21%

- 点 鐘
- ロータリーソング 奉仕の理想
- 高山中央ロータリークラブ職業倫理基準
- ビジター・ゲストの紹介
- 会長の時間



会長 村瀬 祐治

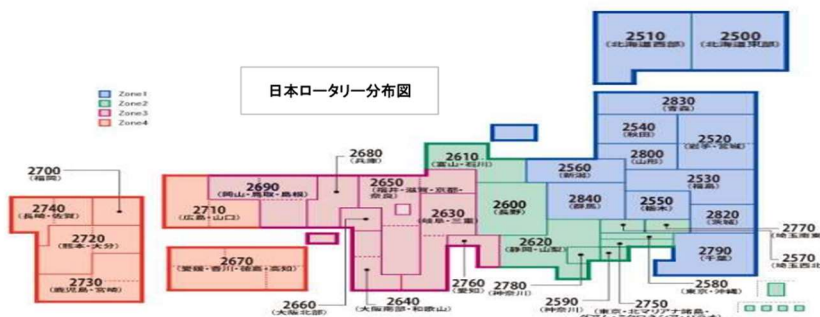
①新生コロナウィルスの感染状況全国的に蔓延防止に歯止めがなく、先週より過去最大の感染者が出ています。岐阜県内においても「第2派非常事態」宣言を発せられ

また先週下呂市で感染者があり、高山市県内にも感染者が出る事に心配をしております。私たちロータリーメンバーができることは感染防止を行うことであると思っております。また、感染防止のため例会開催否かについては理事会の意見をお聞きして判断していきます。

②7月27日に細則改正の提案 島さんの積立金の扱いに対して 細則の改正について 7月27日開催の臨時理事会にて協議いたしました。理事皆様全員に意見について調整をいたしまして 今期中で積立金の扱いについて明確にしていきたいと考えております。

- ③本日、新入会員リエンションがこの後開催されます。  
丸仲建設 住 裕治さんです  
8月第2例会から出席頂く予定です。
- ④国際ロータリーの活動分野について
  - ・日本のロータリーの分布  
34地区の人数について配布資料にて説明

	地区	県名	RC数	会員数
1	2760	愛知県	84	4,893
2	2750	東京都西南部	99	4,811
3	2650	福井県/滋賀県/京都府/奈良県	97	4,664
4	2660	大阪府:大和川以北、ただし柏原市を含まず	82	3,667
5	2710	広島県/山口県	73	3,330
6	2700	福岡県/長崎県/佐賀県/大分県	61	3,218
7	2630	岐阜県/三重県	75	3,190
8	2580	東京都東北部/沖縄県	69	3,108
9	2690	鳥取県/島根県/岡山県	66	3,088
10	2620	山梨県/静岡県	79	3,059
11	2670	徳島県/香川県/愛媛県/高知県	74	3,040
12	2790	千葉県	83	2,848
13	2680	兵庫県	73	2,823
14	2610	富山県/石川県	64	2,680
15	2510	北海道西部	69	2,627
16	2770	埼玉県東部	74	2,608
17	2720	大分県/熊本県	75	2,469



## ● 幹事報告

幹事 岡崎 壮男

- ◎ R I 本部より
    - ・ザ・ロータリアン誌
  - ◎ 国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より
    - ・ガバナー月信 8 月
    - ・地区社会奉仕補助金申請のご案内
    - ・夏季休暇について
    - 8 月 13 日 (木) ~16 日まで
  - ◎ 国際ロータリー第 2630 地区ガバナーエレクト事務所より
    - ・夏季休暇について
    - 8 月 7 日 (金) ~16 日まで
  - ◎ 高山ロータリークラブより
    - ・例会変更のお知らせ
    - 8 月 6 日 (木) 納涼例会中止
    - (新型コロナウイルス感染予防のため)
  - < NPO 法人まちづくりスポットより >
    - ・寄付のお礼状
- \* 熊本豪雨災害義援金、41,922 円振り込みました。

## ● 青少年奉仕/インターアクト委員会

委員長 下田 徳彦



今年度、青少年奉仕・インターアクト委員会委員長の下田です。本日は高山中央 RC が青少年育成の継続事業として長年力を入れてきた「出前講座」について改めてお話させて

いただきます。

当クラブとしては今から 10 年前に当時の永家委員長がこの事業をクラブ単独で立ち上げ、そこで一緒に取り組んだ事がきっかけとなり、一昨年まで地区青少年育成委員会（現青少年奉仕委員会）への出向という貴重な体験をさせていただきました。入会間もない方に出前講座の内容を知って頂き、そして会員の皆様に更に理解を深めて頂ければと願っております。

まず皆さんにお願いしたいことが、自分の身内（自分のお子さんやお孫さん）をイメージして、この事業がどんな役割をして、どうして大切なのかを想像しながら聞いていただけると有難いです。「出前講座」についてとテーマがありますが、出前講座の話の前にキャリア教育についてお話します。キャリア教育がとても重要でその中の具体的活動として出前講座があると考えてください。今、社会環境が大きく変化しています。情報化やグローバル化、少子高齢化が進み、今後も益々変化していくと予想されます。そんな世の中に対応して生きていく子供たちには、「生きる力」の育成が必要とされ、それが学校教育に求められています。しかし、学校教育だけで「生きる力」の育成は難しいのが現状であり、地域で協働してキャリア教育を推進し、次代を担う子供たちを社会人として自立

させていく事が求められています。キャリア教育という言葉は平成 11 年にできた比較的新しい言葉で、その活動は平成 14 年頃から推進され、平成 7 年頃から、職場体験などが始まり、現在は手引書の見直しなどが行われています。

文科省は地域にある様々な団体が協力し合っ

て子供たちを育てていくという「社会教育」を「学校教育」「家庭教育」と合わせて、子供の成長を支える新たな仕組みを確立したいと考えています。ロータリーはこれまで培ってきた信頼関係やネットワークを活用し、「社会教育」にも大きく関わり、地域の色々な団体へ働きかけることができる力を持っています。

この「社会教育」が今とても重要な役割をしており、高山においても色々な活動がなされている中の一つに「出前講座」があります。

地域で子どもを育てていくという考えはこれ

からも益々重要になっていきます。

地元の一人としてお話ししますが、高山の魅

力には、自然や歴史や文化などがあります。

それを下支えしているのが、ここに住む人や

その生活です。更にそれを支えているのが地場

産業です。産業があつてこそ地域の魅力につな

がっていくと思います。産業について私たちが

子供たちに魅力を伝えられるか？という話で

すが、色んな仕事があつて、色んな働きがあ

つて生活がなり立ち、文化となつていきます。

しかし、子供たちは、地元の産業の事をほとんど

知りません。出前講座をやつてきて分かったこ

とは、子供たちは自分の親だとか、とても身近

なところから職業選択をしています。知らない

仕事から、自分の将来を照らし合わせることは

ありませんので、まず多くの仕事がある事がある

事を知ってもらふ事が一番大切な事です。子供

たちにとって、自分の夢と将来やりたい事が一

致する事が理想ですが、その前に自分の能力を

活かす場所が地元にあるかどうかを知る機会が

大切であり、「出前講座」が企業と学校や生徒

との接点づくりになっていると考えていま

す。仕事を知ってもらい、見てもらい、職場体

験してもらい、興味を持ってもらう。もしか

したら、今後の就職ということもあるのでは

ないかと考えると、これが究極の求人採用活動

になるのでは、と思います。今の子供たちは地

元の企業の事を知らず、興味を持っていない

のが現実で、それを我々大人たちも伝えていな

いと思います。もし地元企業の魅力を子供た

ちに伝える事ができたなら、良い人材の採用に

もつながり、高山から若者の流出も減少する

と信じています。

これまで実施してきた出前講座の特長は生

徒と対話できるワークショップの様な形式で

す。一方的に話をするのではなく、生徒の声を

聞く事が重要であると考えています。そして、

出前講座の必要性については、学校側が求め

ている事業であることです。すでにキャリア教

育の一環として年間プログラム化されている学

校もあります。それに対してロータリーで提供

できる事業であることです。多種多様な職種

の方が集まる組織であるからこそ、色んな仕事

の話ができ、授業の幅も広がります。更に事業

のものが、ロータリーの基本理念と一致していることです。職業を通して社会に奉仕する「形ある事業」事業です。

出前講座を継続していく上で重要になるのが「教育委員会との連携」です。鈴鹿市と高山市で取り組んできた事例からも確認できますが、我々ロータリーだけでなく、地域の青少年育成に関わる多くの団体が協力し合える組織と仕組みを市町の教育委員会を中心として構築することで、多くの学校からの要望にも対応できるようになり、継続発展させることができます。このように教育委員会との連携が不可欠となりますが、既に高山には、この組織と仕組みが出来上がっています。

出前講座のやり方は、それぞれ自由で良いと思いますが、できるだけ多くの仕事を知ってもらう事が大きな目的でもあるので、多くの講師で出向き、対応していく対話式のやり方が良いと思います。学校の先生では、企業や仕事内容について具体的に子供に伝えることはできないと思っています。なぜなら、実際の経験ではなく自分が得た知識の中でしか、子供たちに伝えることができないからです。例えば建設業という一つの業種の中にも、多くの専門業種があって、それぞれ大変なことや喜びがありますが、そこに実際に携わった人でなければ、本当の事は伝わらないと思っています。自分たちの仕事に誇りをもって、仕事の面白さや、やりがいの子供たちに生の声で伝える事が大切であることを、出前講座を通して痛感しています。

高山市教育委員会が H30 文科大臣表彰を受けた事は、出前講座を継続実施してきた大きな成果でもあり、高山モデルとして地域連携の形が確立できました。これは県内でも非常に珍しいケースで、岐阜県教育委員からも高く評価されています。ここにいたるまでに皆様の協力があったのですが、また今年度も引き続きご協力お願い申し上げて、本日の卓話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

### <ニコニコ BOX>

良いことがありましたら是非、ニコニコへお願いします。  
和田 良博

本日早退します。すいません。

小出 貴博

### 8月のお祝い

#### <会員誕生日>

高原 龍士	S48年8月2日
岩垣津 亘	S29年8月26日
前越 路子	8月26日

#### <夫人誕生日>

谷口 欣也	とも子	8月4日
今井 哲也	陽子	8月18日
長瀬 栄二郎	まり子	8月28日

#### <結婚記念日>

島 良明	S50年8月15日
------	-----------

